

		令和6年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校評価			5：達成率90%以上 2：達成率40%以上	4：達成率80%以上 1：達成率40%未満	3：達成率60%以上
学校教育目標		広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現					
目指す学校像	【目指す学校像】	「地域、保護者の期待に応える学校」●生徒の力を伸ばし、一人一人が主役となる学校●生徒、保護者、地域から信頼を寄せられる学校●組織力が高く、柔軟な対応力や確実な実行力のある学校					
	【目指す生徒像】	「知・徳・体のバランスがとれた生徒」●授業を大切に、自ら考え主体的に学ぶ生徒 ●豊かな心を育み、夢の実現を目指して未来を切り拓く生徒 ●健康と体力増進に自ら努める生徒					
	【目指す教師像】	「高い人権意識と実践的指導力をもつ教師」●人権意識を高くもち、『西東京あったか先生』を实践し体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組む教師●学習指導力、生活指導・進路指導力、組織貢献力、外部との県警衝衝力をバランスよく高め学び続ける教師●共に高め合い学び続ける教師●働き方改革を实践し豊かな生き方を示すことができる教師					
本校の実態と課題		○西東京市GIGAスクール構想の基本方針に従い、ICTを活用した授業を通して生徒の意見や感想を取り入れ、さらに効果的な指導を研究授業で検証するとともに、話し合い活動では、教科、領域全ての話し合い活動を全て「ひばりスタンダード」で行ってきた。また、西東京市の特別支援教育の理念を実現する特別支援学級や巡回指導を通して本校の特別支援教育を充実させるために、通常学級と特別支援学級の教員の強力な連携を図ってきた。今年度は、これらの取組のさらなる充実を図ることや、令和6、7年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校として人権教育を推進していくことで、生徒を一人も取り残さないあたたかな学校づくりを実現していく。					
具体的方策		取組指標 (教員)	成果指標 (生徒)	成果指標 (保護者)	学校の取組及び改善策		学校関係者評価記入欄
自ら学ぶ力の育成	ねらいを明確にし、生徒が主体的に課題に取り組み、ねらいに基づいた振り返りの活動を充実させ「主体的・対話的で深い学び」を実現する質の高い授業を実践する。	5	5	3	すべての教員が意識をして研究授業を行っている。日常の授業においても、生徒が興味をもてる『ねらい』の提示の仕方を工夫したり、振り返りで本時の内容を確認させたりして、時間単位で身に付ける力を明確にしている。その結果、生徒は「授業はわかりやすいか」「授業のねらいや目標がわかりやすいか」「先生はわかりやすい授業を進めるための工夫をしているか」という質問に高い評価をしている。		教員も生徒もわかりやすい授業となっていると評価していることは良いと思う。このまま工夫のある授業を続けてほしい。保護者に対しては、授業参観や保護者会で「見るポイント」、成果物などを示すなどで、学校の取組を伝えることを心がけてほしい。
	授業内の活動において、記録する・要約する・説明する・論述する場面をより多く設定する。生徒が自分の考えをまとめる活動や話し合い活動においては、「ひばりスタンダード」を全教科で共通の取組とし、生徒に主体的に学習活動に取り組ませる。	5	4	3	一昨年より国語科で取り入れている話し合い活動における「ひばりスタンダード」であるが、今年度は4月に研修を行い、教科横断的にすべての教科で実践することに取り組んだ。既に全国学力学習状況調査では肯定意見が全国平均より10ポイント、東京都平均より7ポイント高い評価が出ている。また、学活や道徳の場面でも、昨年度以上に意見交換をする場面が多くみられるようになっている。		「ひばりスタンダード」の取組を通して、積極的な発言を導き出しており、意見発表等に成果を見せている。このような取組を保護者に伝えるための工夫などは今後の課題である。
	学習用タブレット端末を効果的に活用するために、授業での教材の提示、調べ学習、思考過程の可視化、発表や発信、及び家庭学習を充実させる。	5	4	3	一人1台のタブレット使用が定着しており、デジタル教科書を含め、より活用の幅が広がった。また、「効果的な活用」の仕方について教員研修を行ったことで、研究授業に取り組んだ教員も多い。「タブレットを家庭学習でも活用している」という質問に対しては、保護者、生徒とも60%未満であるため、来年度は、タブレットを家庭学習でも効果的に使用できるよう工夫していく。		日頃よりタブレットを効果的に活用していることは良いことであるが、保護者に伝わっていないところは課題である。本日の校内作品展等で、タブレットで作成している調べ学習の成果物等を印刷して掲示したりすることも効果的だと考える。
豊かな心の育成	道徳授業や人権教育を充実させ、生徒の心の成長を促すために、自己を大切に、他者を尊重し合う豊かな心を育てる指導を行う。	5	5	4	「他者を思いやる心を意識することができる」という質問に対しては、保護者の89%が肯定的な意見をもっており、生徒の97%が思いやりの心をもって生活を送っていると回答している。また、都の人権尊重教育推進校として、人権教育に関する講演会等の機会もあり、来年度も継続させていく。		人権尊重教育は、今の子どもたちにとってとても大切なものである。教員、生徒、保護者とも評価が高いことはすばらしいことである。また、今年度のリーフレットもすばらしい。来年度も是非、継続して続けてほしい。
	学校行事や生徒会活動、部活動などの諸活動を通して、生徒自身の学級・学年・学校への所属感や自己有用感を育てる。	5	5	4	「行事・学級活動・道徳の授業などを通じて、自分の心を成長させることができている」と答える生徒の割合が昨年度同様95%となっている。また、3年生の面接練習においては、ひばりが丘中の自慢として「生徒主体の行事」や「あいさつが盛んである」、「生徒間、生徒と教員の仲が良い」とあげる生徒が多いことや行事後のアンケートにおいて、肯定的な意見が9割を占めていることから、自己有用感や所属感が育まれていることがわかる。		生徒会の委員会活動など主体的な取組が充実していることが肯定的な意見9割に直結していると考え。来年度も自己有用感や所属感の育成に努めてほしい。
	生徒同士でいじめられたり、無視されたりすることなく安心して学校生活を送れるように、教員間で生徒情報の共有を積極的にを行い、いじめの防止および早期発見に努める。	5	5	3	すべての教員が「生徒情報の共有を積極的に行っている」と意識しており、日頃から『報告連絡相談確認』を徹底して、いじめの防止、早期発見、早期解決に学校をあげて取り組んでいる。その結果、「いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して活動できている」と答える生徒は97%にのぼっている。ただ、保護者の評価との乖離がみられ、より一層の保護者の連携が必要である。		いじめの対策、不登校対策など組織的な取組は良い。保護者の評価と乖離がみられることが課題であるが、子どもたちが安心して過ごせることがやはり大切であり、継続してほしい。
	挨拶や言葉遣い等の社会におけるルールやマナーの大切さを伝え、規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣を身につける。	5	5	4	「自分で考えて行動する」指導を継続している。その結果生徒は96%、保護者は87%が「時間・挨拶・言葉遣いなど、集団のルールやマナーに気をつけて学校生活を送る」ことができていると回答している。また、移転して4年余りが経ち、最初は心配していた地域の方々からも、ひばり中学生としての振る舞いに高い評価を得ている。		子どもたちは校内で会ったときなどに挨拶してくれたり、気配りができていると思う。社会規範意識の高さを感じる。
夢の実現	三年間を見通した進路指導計画により、生徒が自分及び自分の生き方に自信をもって進路を切り開いていけるように指導・支援する。	5	4	3	学校目標である「夢の実現」に向け、三年間を見通した進路指導に取り組んできた結果、生徒は中1の段階から「進路学習≠進学学習」ではないということを理解しているが、今年度も保護者への浸透が不十分な現状が見られる。今後もより進路学習について、探究的な視点も含め、学年通信やキャリアパスポートを活用して、取組の内容を積極的に発信していく必要がある。		おやじ倶楽部による職業講話、ふるさと探究学習や職場体験の支援は今後も継続していきたい。キャリア教育については、今以上にアップデートしていく必要があると思う。課題として捉えてほしい。
地域との連携	学校ホームページや地域行事、地域の会合などを通して、学校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	/	5	5	毎日の学校HPの更新を通じて日々の取組の様子を、また、月1回の学校便りや、学年便りでは、学校の考え方を積極的に発信してきた。その結果、生徒は93%、保護者は96%が好評価をしている。今後も、この取組を継続していくと同時に、保護者や地域の声にも、より一層耳を傾けていきたいと考える。		HPが毎日更新されていて、学校のことがとてもわかりやすくなっている。保護者や地域からも好評である。また、すぐるで配信される学年だよりの子どもの作文など、とても楽しみにしている。来年度も開かれた学校を目指し、継続してほしい。
	学校運営協議会を中心に学校と地域・保護者との交流を図り、地域に貢献する教育活動を推進する。	4	4	3	学校運営協議会を中心に学校とPTA役員、おやじ倶楽部、学区内運協、地域団体と連携、協働することができた。「ひばりんピック」をはじめとする地域に貢献する教育活動を推進することができた。今後の課題として、取組の内容が生徒が自分ごとと考えられるよう推進していくことである。		「ひばりんピック」は大盛況。ひばりが丘中が、地域の拠点として地域に貢献している。近隣との防災の繋がりがもてきた。取組内容を子どもに浸透していけるとさらに良くなる。
働き方改革	机上を整理し、効率的に仕事をする等に努め、適当りの在校時間が60時間を超えない。ライフワークバランス意識して、20日以上の休暇取得を推進する。	3	/	/	週当たりの在校時間が60時間を超えないという目標を掲げ、机上整理を呼びかけ、効率的に仕事を行うことや連絡ツール「すぐる」を活用したことで、昨年度と比較して改善が見られてきた。引き続き、業務改善や働き方改革の意識を醸成していく。		土日を含め、先生方が遅くまで働いている姿を見かける。子どもにとってもありがたいこと。国として学校への予算や人材を増やさないと大きく変えるのは難しいと思うが、子どもも先生方も余裕をもって活動できるように、そして先生方が過労で倒れないようにしっかりと働き方改革を進めてほしい。
	部活動支援員やSSS、学習ボランティアなど、外部人材の利活用や、経営支援部を充実させることにより、よりよい教育活動を展開するとともに、組織的に働き方改革に積極的に取り組む。	3	/	/	部活動支援員やSSS、ICT支援員等の外部人材の利活用を昨年度より効果的に活用できた。来年度、経営支援部をより充実させることにより、組織的に働き方改革を進めながら、組織的な働き方改革を目指す。		部活動支援員やSSS、ICT支援員等の外部人材の利活用をさらに続けてほしい。部活動の引率など、保護者をお願いできることはお願いして働き方改革につなげてほしい。